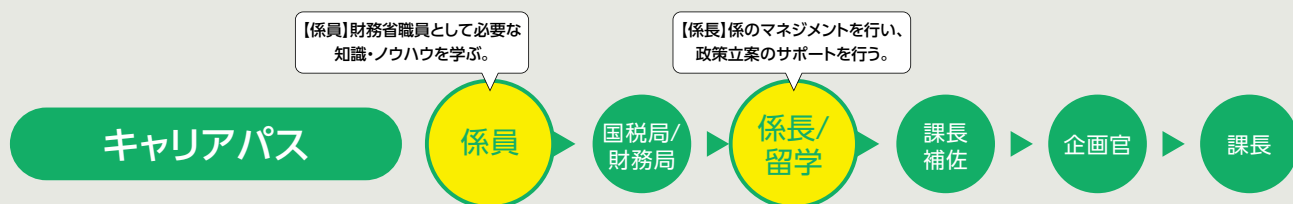


財務省職員のキャリアパス

財務省の職員は、約2年ごとに様々な部局を経験し、キャリアアップしていきます。それぞれのステージで各々の職員がどのような役割を任せられ、どのようなことを考えているのかを紹介します。



現在のお二人のお仕事について教えてください。

渡邊 私の課では、税制に関する経済分析や企画立案、中長期的な視点に立った税制の検討などを行っています。税制について知れば知るほど、税制がいかに社会の在り方の基本となっているかに気づかされますし、自分が関わっている仕事の人々の生活と密接につながっていることを日々実感しており、充実した日々を送っています。また、係長として、広い視野を持って税制が経済社会に与える影響等の資料作成等を行うとともに、政府文書の記述等の調整のハブとしてカウンターパートと良好な関係を築き、係全体のパフォーマンス向上のため周囲の業務量・進捗を常に把握することを心がけています。

岡本 私の主な業務は、(1) 他省庁や他局

からの経済情勢の変化・各種政府会議に関する情報やそれらに関して必要な作業を局内に展開する業務、(2) 毎年の税制改正や中長期的な税制の在り方の検討の前提となる日本経済・社会の構造に関する調査・試算業務です。

(1)は局全体を俯瞰する目線を心がけ、事案の重要度・優先順位を意識して展開しています。(2)は調査・試算したものを、見る人にとってわかりやすい資料の形に作り上げるところまでが仕事です。自分の資料が、最終的に誰によって・何のために・どのように使われるか考えて作成するべきなのですが…まだまだ修業中です。

渡邊係長から見て、岡本さんが特にこの一年で成長したところを教えてください。

渡邊 重要な仕事から些細な仕事まで、手を抜かず全力で取り組む姿勢が素晴らしいと思って見えています。初めは慣れないとこ

ろもあったかと思いますが、今ではしっかりと業務に取り組んでいます。局内の調整なども安心して任せられるようになりましたし、最近では、資料作成の際などに、自分の意見を言ってくれることも増えてきており、とても頼りにしています。

係長には、いつもどのように仕事を教えてもらったり、相談したりしていますか？

岡本 窓口業務・調査業務ともにこまめに係長に報告することを心掛け、自分の作業の位置付けや今後の方向性を一緒に確認してもらっています。係長がどんな状況でも丁寧な仕事をされること、瞬時に現実的な判断をされることを特に尊敬しています。些細な仕事の悩みやこれからの働き方、勉強のことなど、何でも相談しやすいお姉さんのような存在であり、何気ない会話の端々にも勉強になることが多い毎日です。

この一年でやりがいのあった仕事、大変だった仕事について、教えてください。

渡邊 調査課の役割の1つに、中長期的な税制の在り方を検討する議論の材料を提供することがあります。テーマは幅広く、例えば税・社会保障による再分配前後のジニ係数の推移や税・社会保障料の負担率、経済成長に伴う税収の変動のように主税局らしいものから、シェアリングエコノミー市場の現状など新しいトピックまで様々です。

補佐・課長への報告・相談の結果論点が深まり次々と新たな疑問点が浮上することも日常茶飯事で、丁寧な調査と深い理解が要求されるので、係長と係員間の綿密な打ち合わせが不可欠です。一年を通じて、上記のような様々なトピックを扱いましたが、調査を経るごとに係内の連帯感が強くなっていきました。特に、私たちの調査内容が政府税調資料の基礎となり、毎回の税制改正の議論が進んでいくのをみとときには達成感がありましたね！

お二人の働いている主税局調査課の雰囲気について教えてください。

岡本 風通しがよく、係長、係員でも、自分の意見を伝えやすい環境なので、働きやすいです。

また、若手・女性が多く、和気藹々としており、楽しくエネルギーに仕事できています。国際機関や他省庁など様々な場所での勤務経験を持った人も多く、日々ご指導いただく中で、新しいことに気づかされる毎日です。

仕事以外にも、ボーリング大会や、女性が多いので女子会など、関係を深める機会に溢れています。

就職活動中の学生へのメッセージをお願いします！

渡邊 就職活動は悩むことも多いと思いますが、自分がどのような形で社会に貢献したいのか、丁寧に自分と向き合った時間は必ず自分の糧になるはず。様々な会社の方からお話を聞ける貴重な機会でもあります。いろいろな選択肢を悩んで、最後に財務省の一員として働くことを選んでもらえたら嬉しい限りです！

岡本 社会の一員として自分が果たしたい思い・役割(志)を実現する手段は様々だと思います。だからこそ、仕事内容はもちろん、職場の雰囲気、職員の生き方等を含め、幅広い要素を選択の材料とするのも良いのではないのでしょうか。

私の場合はたくさん悩んだ末、最終的には「学生の自分に想像しうる仕事内容でなかったとしても、この素敵なたちと一緒にあれば働いてゆける」と思ったことが大きな後押しとなり、財務省を志望するに至りました。散々悩んだ末の決意があるから、毎日迷いなく働いているような気がします。

ぜひたくさん悩んで、自分の納得のいく職場を見つけてください。



係長
主税局調査課

渡邊 里香

Rika WATANABE
[平成26年入省]

係長×係員 インタビュー

係員
主税局調査課

岡本 実樹

Miki OKAMOTO
[平成29年入省]

係長と係員の一日

09:00 登庁

主要情報ソースに目を通す。新聞の1面に自分が関わっている案件が出ることも。今朝の大臣の記者会見でも記事に関する質問が出たようだが、大臣をしっかりサポート。自分の仕事が世の中の動きに直結しているという思い。また、調査課には、各省や省内からの税制関連の大量の情報や案件が集積する。今朝は、大臣スピーチの税制部分についての依頼。各税目の発言について、大臣からご発信いただきたいことを簡潔かつ的確にまとめるよう、担当部局と調整。

10:00 政府税制調査会

政府税制調査会は、調査課が運営方針や議題について企画・立案を担っている会議で、今後の税制の在り方を学者・有識者の委員に議論いただく場。今日は、フリーランスや副業などに従事する人が増えたり、民泊などのシェアリングエコノミーが進展したりしている最近の我が国の動きについて議論。このような議論を身近で見ることができるのも調査課の醍醐味。

12:00 昼食

政府税調が終わり、ひと段落したところで、昼食の時間。課長以下の課内みんなで省内の食堂に行く(お弁当を持ち込む人も!)。仕事の話からプライベートの話まで、リラックスして楽しむ。

13:00 文書協議

以前から予定されていた政府の閣議決定文書(経済政策パッケージ)の協議が開始された。税に関する記述について課内で検討し、何を書くことができるか、何を書くべきであるか、知恵を絞る。政府の方針を決める重要な文書だ。

15:00 閣議決定文書の内容についての幹部会議

他省との協議が進む中で、その進捗状況について幹部に相談し、主税局としての方針を固めていく。調査課は、この文書に対する担当部局の考え方をまとめて説明する。幹部の判断のベースになるので、大きな緊張感。決定した主税局の方針を胸に、協議再開。硬軟の交渉を経て、協議が無事に終了する。

16:00 IMF職員と今後の税制の在り方に関して意見交換

調査課は、国内の税制の在り方について国内外への発信も行う。今日はIMFの職員との意見交換。自分たちも課長補佐に同行。世界横断的な視野を持つIMFとの議論の中で、我が国の現状とあるべき税制の在り方について、発信。IMFからも、広い視野ならではの示唆を得る。

19:00 夕食

今日は定例の課内の女子会! …の予定であったが、国会で忙しくなりそう。普段は夕食もゆっくり取るのだが、この日は近くでさくっと女子ご飯。

20:00 業務の整理

今朝から検討していた大臣の挨拶については、無事各担当者で内容を合意。明日以降、局内の幹部説明を経て大臣までご覧いただくことになる。また、明日はIMF職員との意見交換の成果をまとめる必要もある。

キャリアパス

係員

国税局/
財務局

係長/
留学

課長
補佐

企画官

課長

地方の国税局・財務局で
財務省行政の現場を学ぶ。



広島国税局 国税調査官

松井 都志子

Toshiko MATSUI

[平成27年入省]

平成 27 年 主税局調査課
平成 28 年 主税局税制第二課

広島から、税制と現場について考える

中国5県をみる、広島国税局

広島といえば、牡蠣、穴子、宮島、原爆ドーム…、そんな印象をもって着任した広島国税局。この印象は、着任早々、新たな気づきとともに塗り替えられることとなりました。外国人と近い街並み、広島に本社を置く多くの大企業、自動車・造船業を中心とした国際的企業、そして、纒々受け継がれてきた産業を守る人々。

そんな広島は広島城の傍らに位置する広島国税局は、中国5県の税務行政を管轄しています。現在、私は調査査察部に属し、大規模法人の税務調査を中心に、査察、徴収等の業務も担当しています。

入省3年目に地方国税局勤務をするということ

○税務行政とは

税務行政の目指すところは、税の適正か

つ公平な賦課及び徴収の実現です。私の属する調査部門では、法人の財務書類の確認、経理部長や関連社員へのヒアリング、取引先企業への反面調査等をもとに、適正な納税に向けた支援・指導を行っています。

長年調査をされてきた方々に混じり、税務行政のほんの一部を担う日々ではありますが、企業経営への助言や、時に緊迫した差押えに立ち会うこともあり、その重責に接する場面に枚挙の暇はありません。あらゆる場面を通じ、税務行政の現場が、日本の税制を支えていると痛感しています。

○「営み」を見る

税務調査を通じて、自動車部品業、造船業、産業廃棄物処理業、塗装業、鉄筋業をはじめ、様々な業種の方々と接する機会がありました。その中で、経営者として、一業界人として、真剣に考え、立ち向かうべき

ものに立ち向かう人々の姿を見ました。間違ったことはしていないと、大吹雪の中、工場を一つひとつ案内する会長。近年話題の多額リベートに関連し、自分の信念と向き合い悩む部長。こだわりと自負をもって自身の生業に取り組む姿、そして一方で、様々な事情を抱え、各々の主張をする姿がありました。そして、そうした人々に真摯に向き合い続ける税務職員の姿もありました。税は、人々の「営み」を映します。これ以上の「現場」を私は想像できません。

広島から、 今後を考える学生のみなさんへ

奇しくも、私は3年間税制関連業務に携わり、1年ごとに異なる「税」の側面を見てきました。外国税制調査(税制改正部署のバックアップ)→消費税法制(税制改正を1から考え、税法に落とし込む)→広島国税局(納税者と直に接する)…と、これほど包括的に税のことを学べるキャリアパスはあるだろうかと感じます。「税制企画」と「税務行政の現場」、これらが両輪となって「税」を支えている、という先輩の言葉がありました。まさにその通りでした。財務省は長期的視座に立った仕事をする場所であるため、大変なこともあります。その中でも自分なりの色をつけて仕事ができたり、制度のその先を想像したりすると、やはり手応えがあります。税制だけでもまだまだ学ぶべきことは尽きません。これから先、税制以外にもどのような世界が財務省に広がっているのか、とても楽しみにしています。



キャリアパス

係員

国税局/
財務局

係長/
留学

課長
補佐

企画官

課長

【留学】語学の修得とともに、海外の大学院で
修士レベルの勉強をする。



留学(米・ペンシルバニア大)

島貫 まどか

Madoka SHIMANUKI

[平成23年入省]

平成 23 年 大臣官房文書課
平成 25 年 札幌国税局
平成 26 年 主税局総務課

2年間の学びを糧に、実践へ

※筆者は写真右端

プライベートセクターとパブリックセクターを繋ぐ人になり、社会をよりよくしたい、そんな思いから財務省に入省し、入省6年目でアメリカのビジネススクールに入学しました。

は、私の視野を大きく広げてくれました。視野の狭さゆえに、より良い政策提言をする機会を失っていたかもしれない。そんな思いに駆られています。

Comfort zoneから抜け出し、 挑戦をし続ける

アメリカには、現状に甘んじる人より、挑戦する人を尊敬し応援する文化があります。ただ、挑戦といっても、やみくもに手を出すということではなく、多くの準備や判断力や交渉力も必要になります。私も何度も挑戦の機会に恵まれました。

難病の治療法を研究する医療団体に対し、研究促進に向けたコンサルティングを

“当たり前”を疑ってみる

生まれてからほとんどの時間を東京で過ごした私ですが、Wharton Schoolに来てから、多くの“当たり前”が覆りました。ビジネス戦略について日本との考え方の違い、それがゆえに日本が得たもの失ったもの等、授業や、クラスメートから学ぶビジネス経験や社会への問題意識



留学(英・ケンブリッジ大)

浅尾 耕平

Kohei ASAO

[平成24年入省]

平成 24 年 国際局国際機構課
平成 26 年 金沢国税局
平成 27 年 主計局総務課

財務省の「武器」とは

財務省に求められる「武器」

現在私は英国で金融を学んでいます。国際局での勤務を通じて、金融危機の再発防止に向けて銀行部門の構造を理解すること、また主計局での勤務を通じて、財政事情が厳しい中様々なファイナンスの手法に精通することの重要性を痛感したためです。日々複雑化する社会経済問題に立ち向かう財務省は、旧来の知識や技能だけでなく、時代に応じた新しい「武器」も求められる職場です。

財務省で得られる「武器」

同級生に比べ、会計や企業金融の知識、英語が優れているわけではありません。それでも自分が議論に貢献できる瞬間があるのは、財務省での勤務を通じて、論理的思考力という「武器」が鍛えられたからだと思います。我々は、「この分野が大事だ」という結論ありきの考え方はせず、時々様々な問題を等しく吟味した上で、リソースも勘案しながら、考え得るベストの政策パッケージを提案します。提案を関

した際のことです。当初私たちは、資金不足のみが要因との仮定のもと、作業を進めていました。ところが、徹底的な統計調査や、話を聞くのは無理と思われた人々へのインタビューに踏み込んだところ、真の要因が浮き彫りとなりました。現状に甘んじず、挑戦を続けることの大切さを知りました。

皆さんへ

財務省は、国内外の別なく、“当たり前”を時には疑い、多様な視点から客観的に現状把握に努め、より良い日本経済・社会・ビジネスを求めて挑戦を続けていく職場だと思います。私は留学前に主税局にいましたが、税制が、人の生活のあらゆる側面に寄り添って変わっていくものであり、さらには、積極的に変化を支えるものでもあると痛感しました。引き続き、周りに変化に広く敏感でありたいと思いますし、政府以外のセクターにも聞く耳と行動力を持つ人間でありたいと思っています。さて、私もそろそろ留学後の実践に向けて気持ちが高まってきました。皆さんと一緒に挑戦できる日を楽しみにしています！

係者に納得してもらうためには、あらゆる観点から筋が通っていることが重要です。その実現のために、日々議論を繰り返し、多方面の人々のもとに足繁く通います。財務省のこの「武器」の強みは、大学や国際機関といった省外でも職員が活躍していることにも表れていると思います。

迷っているあなたに

この冊子を見ている人の中には、「私は財務省の人達とは違うんじゃないか…」と思っている人もいます。私もそうでした。私は理系出身で、財務省志望の友人も周りにいませんでした。面接の際、当時の採用担当にこの不安を打ち明けたところ、「むしろ、周りとは違うことに自信を持ちなさい。社会が複雑化する中で、財務省には新しい力が必要だ」という言葉を頂いたことを覚えています。まずは気軽に、しかし胸を張って、財務省の門を叩いてみてください。皆さんの力は、きっと財務省の新しい「武器」となるはずですよ。

ある時は 南スーダンに、 ある時は金融市場に… お金の関わるところなら どこへでも!

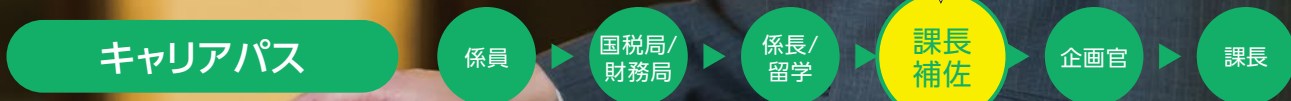
主計局調査課 課長補佐

矢原 雅文

Masafumi YABARA

[平成15年入省]

【課長補佐】行政の最前線で政策の企画・立案の中心的役割を務める。



学生へのメッセージ

このパンフレットをご覧の方はお分かりのとおり、財務省の仕事は非常に多岐にわたります。今回、「財務省の仕事って何だろう?」と改めて考えた時、浮かんで来たのは、「お金に関わるのなら何でも」でした。「お金」というと夢のない仕事だと思われるかもしれませんが(私は財務省に入るまでそう思っていました)。ただ、ある人がどうやってお金を得て、それをどう使うかは、その人の価値観・生き方そのものです。財務省の仕事はさしづめ、皆の意見を聞きながら、国家としての価値観・生き方を形にしていくものと言えるかもしれません。「お金に関わるのなら何でも」ですから、当然、海外とのお金のやり取りも財務省の重要な仕事です。あらゆる局面でポーターレス化が進んだ現在、仕事において、海外の当局や国際機関、投資家との関わりは常に発生しま

す。また、職員がそうした要請に対応していけるよう、留学や国際機関への出向といった機会が豊富に用意されています。これからの日本が何で稼ぎ、何にお金を使い、どう世界に貢献するか。強い問題意識と広い視野を持った多様な人材が財務省に興味を持ち、官庁訪問に参加してくれることを期待しています。



財務省で国際的な仕事?

2003年
国際局
国際機構課
(新人時代)

財務省で国際的な仕事というイメージが湧かないかもしれませんが、財務省は、世界経済の安定的な発展のため、G7、G20等の国際会議の場で財政・金融政策について他国と協調したり、国際通貨基金(IMF)等の国際機関を通じて経済危機に苦しむ他国に支援を行ったりしています。私が最初に配属された国際機構課は、これらへの対応を担う課でした。G7等で扱うテーマは、各国の経済政策、為替、IMFの融資制度、貧困国

支援、テロ資金対策等、多岐にわたります。専門的な議論が英語で飛び交う中、必死で食らいつき、関係する部署への連絡・連係に努めました。また、IMFの提言に対して、関係省庁とも調整して政府の対応を策定するなどの仕事に関わりました。国際会議の場で議論をリードしていく上司を見て、自分もいつか同じようになれるのだろうかと思っただけです(今でも疑問ですが……)。

経済学に四苦八苦

2006年
プリンストン大学
留学

福岡国税局で1年間、法人の税務調査や査察の仕事を経験した後、米国のプリンストン大学ウッドロー・ウィルソン・スクール(公共政策大学院)に2年間留学しました。国際機構課時代の経験から、「自分もデータに基づく客観的な政策提言・議論ができるようになりたい」と考え、計量経済学を

中心に勉強しました。数学は大の苦手なので大変苦労しましたが、その時に身に付けた知識が今の自分の支えとなっています。夏休みに世界銀行のケニア事務所でインターンをする機会を得て、インフラ開発のプロジェクト管理に携わりました。

国際金融危機の衝撃

2008年
金融庁出向

留学から戻った私は、金融庁に出向しました。配属後すぐに勃発したのが、リーマンショックに端を発する世界的な金融危機です。危機に対応する中で痛感したのが、お金の流れに国境はないということでした。米国で発生した危機により欧州や日本の投資家が損失を被り、影

響が世界中に伝播していく。一国のみで対応することは到底不可能です。各国の担当者や日々喧々諤々の議論を行い、その結果をそれぞれが国内の規制に落とし込んでいく。私もその末端に関わり、証券会社に対するグループベースの健全性規制の導入等を担当しました。

IMF出向

2010年
IMF

続いて私は、IMFにアフリカ局のエコノミストとして出向する機会に恵まれました。IMFではルワンダという国の支援のため、当局とマクロ経済政策について協議したり、南スーダンという独立したばかりの国に出張し、外貨が不足して食料や医療品の輸入にも苦労する中、必要な対応について検討したりしました。また、いくつかの調査ペーパーを発表することもできました。一国の経済は、生産、消費、貿易、金融など、様々な活動から成り立ち、相互に連関しています。例えば政府の消費(財政支出)を拡大すれば、経済成長率は一時的に上昇しますが、生産能力が伴わなければ輸入が増え、通貨安となり、物価や金利の上昇を招きます。経済活動の連関やトレードオフを

可視化し、取捨選択して最適な解(=持続的な成長)を導く。IMFではこうした考え方を徹底的に叩きこまれ、それは今でもしっかりと自分の中で生きています。自分の仕事が経済全体の中でどう位置付けられ、どのような影響を有しているか。そうした広い視野を持てるようになったことは、大変有益なことと感じています。また、プロフェッショナルリズムと高い使命感を共有しつつ、様々なバックグラウンドを持つ同僚と働く中で、自分の強み・弱みを認識し、その上でどう仕事に貢献し、付加価値を生み出していくかを徹底的に考えることができたのも貴重な経験でした。

金融市場の一プレイヤーとして

2014年
理財局
国際業務課

理財局国債業務課は、政府の運営のため、年間200回を超える国債発行入札等を行い、延べ500兆円超という途方もない資金調達を行っています。私の仕事は日々の入札を行いつつ、必要な資金をより確実に、低いコストで調達するための方策を検討、実施することでした。国内外の経済動向、金融政策、安全保障情勢…国債市場は世界中のあらゆる事象の影響を受けます。当時は各国の非伝統的な金融政策を背景に、

欧州や日本で金利がマイナスになる、つまり借金の額よりも返済額の方が小さくなる事態が生じ始めた頃でした。そうした事態が市場にどんな影響を及ぼすのか、どんな要因があり、いつまで続くのか。簡単に答えは出ませんが、入札は待ってられません。国内外のディーラーや投資家と日々意見交換しつつ、不確実性の中で政策を判断、実行し、市場の評価を受ける。大変刺激的な仕事でした。

「オチ」をつける仕事

2017年
主計局調査課

私が現在所属している主計局調査課の目下最大のミッションは、経済財政運営に関する新たな計画の策定です。日本という国が、世界史上例のない少子高齢化に突入する中で、どう持続的に成長し、将来世代に明るい社会を引き継いでいくかを日々考え、省内外の関係者との議論・調整を行っています。スケールが大きすぎてくらくらしそうな仕事ですが、留学先やIMFで学んだマクロ経済運営の考え方や、金融庁や理財局で学んだ金融市場の視点もフル活用しつつ、先日生まれた子供の顔を思い浮かべながら、使命感・責任感をもって取り組んでいます。主計局で働く中で改めて思ったのが、「財務省は分野も時間も超えた視点に立て「オチ」をつける役所だ」ということです。国家運営において大事なことはたくさんあります。年金だって、子育て支援だって、教育だって、インフラ整備だって、地方の活性化だって、防衛だって、すべて重要です。でも皆がそれぞれの課題の重要性を主張し、予算を要求するばかりでは、今声を上げることのできない将来世代が割を食うばかりです。財務省は様々な課題の重要

性を認識・整理した上で、将来世代のことも考え、毎年の予算編成という結果を出すことが求められます。そのような役割を担う財務省だからこそ、ディープな情報が集まり、頼りにされているように感じます。「財務省は予算を削ることしか考えておらず、政策の中身を知らない。」そう思われる方もいるかもしれませんが、しかし財務省の仕事はそんな楽なものではありません。各省庁の予算の査定を担当する私の同僚達は、関係者が納得する「オチ」にたどり着くため、限られた財源をどう活用すればより高い政策効果が実現できるか、相手省庁や民間の関係者と徹底的に議論しています。必要と考える予算には積極的に予算を付けたり、相手省庁が様々なしがらみで踏み込めない課題に踏み込んでいくこともあります。広い視点に立て、日本や世界を少しでも良くするために自分の立場で何ができるかを常に考え、議論や挑戦することを厭わない。財務省に求められるのはそのような人材だと思いますし、自分もそうありたいと願っています。

思いもかけない人生

理財局国有財産企画課
政府出資室長

福田 誠

Makoto FUKUTA

[平成8年入省]

【企画官】重要事項についての
企画・立案に携わる。

キャリアパス

係員

国税局/
財務局

係長/
留学

課長
補佐

企画官

課長

学生へのメッセージ

人生は、自らが作るものです。しかし、思いもかけない人生もあります。思いもかけない人や出来事との出会いが、その後の人生を大きく変えたことはないでしょうか。

私は、財務省で、思いもかけず、これまで様々な経験をしてきました。経験できてよかったと思う仕事はたくさんありますが、その多くは、事前に自分自身で意識して選べたかという、おそらく選べなかつただろうと思っています。

自分が考える生き方というのは、どうしてもそのときの今ある自分の枠にはまってしまう。自らの人生の潜在的な可能性は、今ある自分では分

かりません。今ある自分の枠を超えて自分が成長するためには、今ある自分の枠以外の経験を積む機会が重要となります。

財務省は、そうした思いもかけない人や出来事との出会いが様々な存在し、壮大な仕事のスケールの下、人を育てるとともに、新鮮な刺激を常に提供する職場です。

財務省の門戸を叩いていただくことで、学生の皆様と我々の出会いがはじまります。そうした中から思いもかけない出会いが生まれるかもしれません。是非財務省を訪れてみてください。

1996年

主計局総務課
(新人時代)

新人時代の官邸の思い出

1996年、私が最初に配属されたのは、予算編成の司令塔となる主計局総務課でした。当時の橋本龍太郎総理への説明資料をコピーしたり、深夜遅くに当時の官邸に書類を届けに行き、赤絨毯の敷かれた正



面階段や2.26事件での弾痕(定かではない)を見て、いよいよ予算編成も大詰めだと感じた記憶が懐かしく思い出されます。この一年で鍛えられたことが今私の財産となっています。

2005年

青森県出向

血の通った予算の現場

介護保険等を担当する高齢福祉保険課長として、日本や家族のため尽くされてきたお年寄りの方への福祉の心の重要性を実感しました。若い人たちが懸命に働いていたことも印象的でした。こうした現場を支えるのが財政の仕事です。現場で予算がいかに使われているのか、社会保障の理念である社会的連帯がまさに具現化された血の通った

予算の現場を経験することができました。

財政課長として、若くして責任ある立場を任され、県の予算編成に携わりました。青森県は、厳しい経済環境の下でも、堅実な財政運営を行っています。私も、行財政改革に取り組みました。

2009年

主計局主査

緊張の政権交代と緊迫の東シナ海

2009年、主計局調整係の主査となりました。政権交代の直後、各官庁が緊張する中、事業仕分け等を担当することとなりました。評価は分かれています。当時、最も脚光を浴びた政策の一つでした。予算編成プロセスの一部をオープンにする取り組みで、各事業を国民に分かりやすく説明できるようになり、今も行政事業レビュー等に引き継がれています。

迫る東シナ海情勢を肌身に感じました。海上保安庁等の予算を強化しつつ、予算全体の効率化に取り組みました。また、鉄道運輸機構の剰余金について、財務省は国鉄債務の国民負担により生じたものと主張し、大臣折衝を経て、1.2兆円の国庫納付が実現しました。

その後、東日本大震災が発生します。国民の一人として被災地のためにできることはないかと、鉄道復旧をはじめ被災地のために異例の予算措置を講じました。

復興の加速化

第2次安倍内閣の発足で根本匠復興大臣が就任し、その秘書官を拝命することになりました。当時、復興の加速化は、経済再生、国の危機管理とともに、内閣の最重要課題の一つとされていたことから、大臣が強いリーダーシップを発揮し、政権交代直後の政策変更を行うこととなりました。私も、大臣ならどのように考えるのかといった、普段考えないような視点で物事をみることも少なくありませんでした。幸いにも大臣から絶大な信頼を頂いたおかげで、復興の加速化に貢献で

きたと思います。

また、大臣秘書官の仕事は、非日常の連続でもありました。普段から大臣、SP(警護官)と行動をともにし、毎日テレビで報道される関係閣僚会議やテレビスタジオ、オバマ米大統領が国費で来日した際の皇居での歓迎式典にも随行することができました。一方、連日の国会審議や記者会見での緊張感も忘れられません。思い出にも残る仕事となりました。

2015年

文書課
広報室長

G7が身近に

広報室長は、大臣の記者会見や報道機関への対応、財務省の広報戦略等を担当します。財務大臣のご発言はとても重要で、為替や株価が大きく動くとき直ちに注目が集まります。G7、G20等の国際会議でも必ず記者会見が行われ、広報室長は大臣の外遊には必ず同行します。これまで国内中心の仕事が多かったのですが、G7等が身近に感じられ、国際的な視野が一気に広がりました。更に、G7財務大臣会合が日本しかも仙台開催となったので、復興庁と協力し復興の国際的なアピールも行いました。

また、報道機関の方々と頻りに意見交換を行いました。様々な切り口や様々な問題意識が世の中にはあることがよく分かり、視野がとて広がります。

更に、積極広報にも取り組みました。これは、企業の広報に最も近いかもしれません。各界で活躍する著名人の方々のお話も聞くことができました。国民の皆様は財政の現状や今後を理解して頂くことの重要性は、より一層高まっています。

2016年

理財局国有財産企画課
政府出資室長

ビッグ・ディール

政府出資室長は、特殊会社や独立行政法人等に出資する国の財産を管理することが仕事です。その総額は、2017年3月末で76兆円に上ります。この桁の金額を扱う仕事は、財務省ならでもありません。その中でも特に重要な仕事となっているのが、政府保有株式の売却です。2017年9月、日本郵政株式1兆4,084億円を売却しました。エウロ・マーケットに直接プレーヤーとして参加するという、官庁にはめずらしい仕事です。この金額は、この年の国内最大のディールとな

り、世界でも2番目のビッグ・ディールとなりました。この規模を取り扱う機会は、官民通じて、なかなかないでしょう。

日夜、市場動向と格闘しなければなりません。世界の一体化が進み、経済情勢はもろろん北朝鮮等の地政学リスクから海外の選挙まで、様々な出来事が市場に影響を及ぼします。なかなか先が読めない中での決断は厳しかったのですが、その分やり遂げたときの達成感がありました。



世界一 うまいビール

大臣官房参事官(関税局関税課担当)

山崎 翼

Yoku YAMAZAKI

[平成3年入省]

【課長】所掌事務の政策立案の責任を担う。



学生へのメッセージ

25年以上も前に私が官庁訪問をしていた時、シンプルに、国や人のために
なる大きな仕事がしたい、と願っておりました。ご縁あってお世話になった財
務省ですが、実際のところ、官邸勤めや破綻金融機関の処理、防衛予算やOD
A予算の編成、更には「花の都」パリでの勤務など、入省前には想像もできな
かったような、多様でやり甲斐のある仕事をやらせて貰ったなと思います。

財務省では若いうちからどんどん「大きな仕事」や「国や人のためになる仕
事」を任せられます。それは財務省の大きな権限に裏打ちされるものですが、
権限が大きければその分責任も重くのしかかってきます。そのため、責任の
重さに背骨がきしむような思いをすることや自分の判断が本当に正しいのか

と悩むこともあります。しかし、こうした苦悩や葛藤を乗り越え、仕事に区切り
をつけた時の達成感、充実感はひとしおです。

私は仕事の区切りの時に、仲間やカウンターパートと飲むビールを「世界
一うまいビール」と思っています。予算折衝を終えて相手省庁と飲むノーサイ
ドのビール、法案作りに苦心した同僚と互いの健闘を称えながら飲むビー
ル。これまで、何度もうまいビールを飲んできましたが、この歳にしても、その
旨さは格別で色あせることはありません。どうですか、そんなビール、一緒に
飲んでみませんか？(飲めない方はソフトドリンクで！笑)

バブル崩壊の入り口で

振り出しは銀行局(当時)。金融機関からの不動産業向け融資を抑制
する、いわゆる総量規制を担当しました。当時の異常な地価高騰の中
で政府が掲げた「土地神話の打破」のための措置の一つです。私の時
に規制解除をしたのですが、「地価は十分に下がっていない」として解

除に反対する声も多く、上司(「バブルと生きた男」の著者)の指導の
下、その是非の判断の基となる地価と融資額の相関の分析などに当
たりました。

金融危機のど真ん中で

1998以降金融機関の破綻が相次ぎました。私は金融再生委員会
事務局で、破綻金融機関を再生する業務を担当しました。急ごしらえの
組織で、課長補佐2年目の私が、弁護士や公認会計士、日銀などの職
員から成る混成チームのまとめ役となり、譲渡先との交渉、破綻金融
機関の管理、5名の委員からなるボードへの案件説明などに当たりま

した。税金を投じる救済に厳しい批判を受けましたが、金融システムを
守るという使命感を支えに取り組みました。これは一例ですが、政府の
最重要課題に対応するべく特命組織が新設されると、財務省から出向
して中核業務を担うことが多々あります。

がっぷり四つの予算折衝

予算の要求省庁側は「あれもこれも」となりがちですが、主査は要求
を精査し、優先順位付けをして相手にぶつけ、折衝を積み重ねて予算
としてまとめます。私は主査として3年間で外務省、防衛省などの予算
を担当しました。外務省予算では、50億ドルのイラクの復興支援の枠
組みをまとめました。融資を活用して国民負担を抑制するとともに「使

途を目に見える形で示せなければ国民の理解は得られない」と外務省
を説得し公表につなげました。防衛省予算では沖縄を中心とする米軍
の再編への対応が課題でした。米軍の戦路上の再編への税金の投入
には批判もありましたが、基地負担の軽減という我が国の利益にも適
うものと考え、防衛省と資金負担の枠組みをまとめました。

政府の中核で

平成20年の年末、突如「年明けから官邸で働いて欲しい。」と内示を
受け、霞が関の事務方のトップである官房副長官の秘書官として働か
しました。私を含め4人のチームで副長官をお支えしました。霞が関から
の重要な案件は総理まで上がる前に副長官にも上がります。秘書官は
基本的にその席に同席しますので、各省庁の重要案件を勉強する非常

に良い機会となりました。また、北朝鮮のミサイル発射を受けて官邸
のオペレーションセンターに参集される副長官に随行する機会もあり
ました。緊張の日々でしたが、霞が関での意思決定プロセスや、政府の
中核での危機管理を間近で勉強できる大変貴重な経験でした。

パリでのワークライフバランス

2年間の留学の機会はありましたが、国内勤務が多かったことから、
海外で英語を使う仕事がしたいと思っていたところ、パリの経済開発
協力機構(OECD)で勤務する機会を得ました。私の所属した部署は国
際租税に関するルール作りを担っており、そのルールをメンバー外の
国に普及させるアウトリーチ活動(セミナーの企画立案、予算手当て
など)を担当しました。当然仕事のやり方も財務省とは全く違いますし、
外国人の上司・同僚との仕事はとても新鮮で刺激的でした。他方で、

トップダウンの欧米式の仕事を体験するにつけ、財務省ではいかにボ
トムアップで若い人に大きな仕事が任されているかを強く感じました。
当時1歳半になる子供を抱えての勤務でしたが、休暇におむつを抱
えてヨーロッパ各国を回ったのも良い思い出です。ワインに目覚め、ブ
ルゴーニュやボルドーの醸造所巡りもしましたし、帰国後にワインエキ
スパートの資格を取りました。

ODA予算と熊本大地震

課長クラスになると、いわばチームの指揮者として各ラインを統括
します。省内では幹部とチームの間の調整はもちろん、大臣等へのご
説明を任せられ、対外的には財務省の「顔」として、国会やマスコミへの
対応に当たります。

私は主計局では主計官として内閣、外務省などの予算を担当しまし
た。外務省予算では、折からの円安で、外貨ベースのODAの事業規模
を維持しようとすれば円ベースの予算が増加しかねず、100億円を超

える伊勢志摩サミットの開催経費も加わる中で、事業の効率化を行
いつつ、予算の姿形をどう作り上げるか苦心しました。また、災害の初動
の対応を担当する内閣府の予算を担当した時に熊本大地震が発生しま
した。現地の状況に関する情報が錯綜する中、震災直後から、関係省庁
を含め多方面から続々入ってくる情報を基に、水、食料、寝具、仮設トイ
レなどの支援物資の予算措置に尽くしました。宮内庁の予算も担当し、お
茶会で天皇・皇后両陛下にお目にかかる大変光栄な経験でもできました。

いまだ全速力で…

現在、私は関税局の国際担当の参事官として、トランプ政権の動向、
NAFTAやBrexitの交渉状況に関する情報収集や分析に追われていま
す。通商問題の核心は関税政策にあるからです。最近では、スタッフと
共に、米大統領がNAFTAからの脱退を通知した場合の米国内の法的
効果について所見をまとめたほか、米国の対日貿易赤字の要因や
構造について調査・分析を行いました。また、制度所管省庁としてTPP
などのEPA交渉に参画するほか、日米経済対話では個別イシューにつ

き財務省を代表して米国の通商担当等との交渉に当たっています。
今年の6月に世界税関機構(WCO)という国際機関の事務総局長
の選挙が予定されていますが、我が国は財務省出身の御厨氏を擁立
しています。選挙参謀として選挙戦略の立案や情勢分析を総括すると
ともに、メンバー国の支持の取り付けのため、チームで手分けをして世
界各国を飛び回っています。役人なのに選挙(それも国際的な)に携わ
るなんて何とも得難い経験ですよ。